



ふるさと

ねやがわ

第65回

# 「未来の日本代表育てたい」 ドイツでサッカークラブ運営

FC バサラマインツ会長

やました たかし  
山下 喬さん(39歳)

## 私とふるさと

市立東小 第一  
学校、第一  
中学校を卒業。小さい頃から田んぼ  
や公園、神社などで日が暮れるまで  
遊んでいましたが、私にとっての一  
大イベントは寝屋川まつりでした。

思い出の場所はサッカーの楽しさ  
を再確認できた一中です。微力です  
が、たくさんのいい思い出がある寝屋  
川市に何か恩返しができないかと、  
当時の仲間たちと話をしています。

それでも「基礎を学んだ3年間」  
と振り返り、関心は海外サッカーに。  
監督や、1年生のときに参加した欧  
州遠征の関係者に相談し、契約した  
のはドイツの田舎町で活動するアマ

## 高校1年生で欧州遠征 18歳で単身ドイツへ

「必ずプロになる」。その思いはか  
ないままでしたが、18歳で渡った  
ドイツでサッカー選手から指導者に  
転じ「FCバサラマインツ」を設立。  
プロを志してやって来る日本人選手  
を受け入れ、自身が成し遂げられな  
かった夢をともに追いかけています。

指導者だった父親の影響で物心つ  
いたときにはボールを蹴っていました。  
強豪校の兵庫・滝川第二高校では  
守備のセンターバックでプレー。3年  
生で念願の全国高校サッカー選手権  
大会出場を果たしましたが、途中中  
代でオウンゴールを記録し「不甲斐な  
い結果でした」。

## プロ諦め指導者へ 後輩との再会が転機に

2シーズン目に優勝すると、プロの  
1部リーグに所属する「マインツ05」  
の下部組織に移籍。トップチームの  
練習にも参加し、「ブンデスリーガの  
選手とプレーしただけで何かを達成  
できた」と勘違いしてしまいました。  
ドイツにやって来た頃の「がむしゃ  
らなプレー」は影を潜め、1年足らず  
で戦力外に。23歳で現役を退きます  
が、6年後、転機となる出会いが待っ  
ていました。「マインツ05」の育成部門  
でコーチをしていた2013年、高  
校の後輩で日本代表の岡崎慎司選手  
(現ベルギー・シントトロイデン)が  
移籍してきたのです。

## 「光り輝いて」の願い込め 岡崎選手とクラブ設立

「喬くん、ドイツでクラブを作ること  
に興味ありませんか」。翌年の春、同じ  
幼稚園に通う子どもを送った帰りのカ  
フェで、岡崎選手にたずねられました。  
引退後に日本人選手のサッカー留  
学を支援する仕事に携わってしまし  
たが、この一言に「クラブという形で  
サポートすれば、選手はより確実に  
成長できると思いました」。

「バサラ」とはダイヤモンドの意味。  
「光り輝いてほしい」との願いを名  
前に込めてドイツ西部のマインツで  
クラブを立ち上げ、監督も兼任。岡  
崎選手もアドバイザーとして支え、

## プロへの挑戦サポート ライバルのクラブも注目

11部からスタートしたクラブはアマ  
チュアリーグ最上位となる6部まで  
昇格しました。



8部リーグで優勝しユニホームを  
振って選手たちと喜ぶ山下さん(中央)

一番に掲げるのは選手の育成とプ  
ロへの挑戦をサポートすることです。  
現在、総勢60人のうち17人の日本人  
選手が所属し、1年目の選手には、自  
分がどのレベルにいるかを理解し、プ  
ロに這い上がるためにはドイツ語の  
習得も必須」とアドバイス。自身は常  
に辞書を持ち歩き、「私が理解してい  
ないと分かる」と、いつもチームメイト  
が単語を教えてくださいました」とい  
います。

◇  
設立から今年で丸10年。過去5年  
間に上部リーグの4部と5部に18人  
を送り出すなど育成型クラブとして  
ライバルも注目しており、「未来の日  
本代表を発掘して育てたい」と夢を  
膨らませています。